

(様式2)

管外調査、研修、要請陳情、各種会議結果（報告）

舞鶴市議会議長  
上羽和幸 殿

令和 元年 8 月 2 1 日

会派に所属しない議員 氏名 西 村 正 之  
田 村 優 樹

このたび、調査、研修、要請陳情、各種会議をしましたので、下記のとおり報告します。

#### 記

- 1 参加者氏名：西村正之・田村優樹
- 2 調査・研修地、要請陳情先、各種会議先
  - ① 秋田県横手市教育委員会 横手北小学校
  - ② 山形県南陽市農林課 シェルターなんようホール
  - ③ 福島県福島市環境部環境課 「エコステ」 J R福島駅
- 3 期 間：令和 元年 7 月 2 4 日 ～ 7 月 2 6 日
- 4 経 費：西村正之（60,920円）田村優樹（61,310円）
- 5 結果の概要
  - ① 面会者・研修講師名  
横手市：教育長・教育指導部長・教育指導部課長・横手北小学校長  
南陽市：南陽市長・市議会事務局長・農村森林整備主幹・農林課係長  
みらい戦略課課長補佐・シェルターなんようホール館長  
福島市：環境部環境課 再生可能エネルギー推進課長・主事・係長  
議会事務局主査・課長補佐兼係長・J R福島駅「エコステ」課長

②調査、研修、要請陳情、各種会議先内容 … 別紙にて次の事項を記載

ア 事業目的、事業の概要、経費・財源、効果など

イ 研修、要請陳情、・各種会議内容

ウ 所見

研修内容

ア 事業の概要

秋田県横手市「言語教育について」

岩手県南陽市「企業の森事業について」

福島県福島市「福島市次世代エネルギーパーク計画について」

イ 研修内容

秋田県横手市「学力向上の取組に関わること」

「言語活動の充実に関すること」

「教育行政について」

「横手北小学校」現地視察

岩手県南陽市「企業の森事業への取組みについて」

「森林整備について」

「森林整備」現地視察 「シェルターなんようホール」現地視察

福島県福島市「再生可能エネルギーの導入推進について」

「市の取組み・民間事業者の取組み事例について」

「環境最先端都市福島の実現に向けてについて」

「エコステ」JR福島駅構内現地視察

ウ 所見：秋田県横手市

横手市では、平成24年～26年度に実施した事業の成果と課題を踏まえつつ、平成21年度から取り組んできた「言語教育の充実」を中核にとらえた研究指定事業の継続と進化を図りながら、児童生徒の確かな学力の育成に取り組まれていた。さらには、平成27年度より各中学校区単位で2年の研究指定を行い、共通課題を明確にした上で、その課題解決に向けた研究の視点や重点等を具体化し主体的な研究が推進されている。また、成果や課題は小中学校で共有され、研究推進状況の見直しや授業改善等に積極的に生かされ、全市一体となって児童生徒の更なる学力向上を目指されていた。

こうした経緯から、現在では「言語活動の充実による確かな学力の育成」を

研究主題に、各教科等において思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、基礎的、基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視し言語環境を整えた結果、課題解決に向けて児童生徒の一人一人がしっかりと自分の考えを持ち、集団の中で生き生きと伝え合ったり話し合ったりする姿が見られるようになったことは大きな成果であるといわれていた。

現在では、互いに関わり合いながら児童生徒が主体となって学びをつくるという授業の様相が一般的となっている傾向が見られる中で、今こそ、言語活動の充実の本質を捉え直し、その過程における学びの質を高めることに次の研究推進の視座を置く必要性、ねらいの達成に向けて有効に機能する授業づくりを進めようとしている方針は正に先進的であり、児童生徒が主体的に取り組み、試行錯誤しながら課題の解決を目指すことは、達成感や満足感等とともに自らの変容や確かな力の獲得を実感するものであると認識しました。

また、学校現場での特徴的な取り組みでは、ICTに依存しない情報活用能力等の育成につながる読書活動の充実及び図書・新聞の活用が非常に重要であるといわれ、市内小中学校における共通実践課題として活字を読む習慣、環境づくりが推進されていたことは実に有効的であると感じたことから、本市でも早期に実践すべきだと思ふ次第です。

## 視察状況



## ウ 所 見：岩手県南陽市

南陽市では、森林の手入れ不足や病害虫による被害などがある山林を、市内外の企業の協力を得て森林整備が実施されている。

こうした企業による森づくりは、3つのタイプからなり、Aタイプでは、企業からの資金提供を受け、地元住民で組織する「森づくり委員会」等と市が連携・共働して整備事業を実施。地元企業と10年間の協定を結び、年間500万円を財源に、これまで100,00本を越える桜の木が植樹され、委員会で管

理しながら、市内外の方々が訪れる憩いの場となるよう整備計画が進められ官民一体となった事業が特徴的である。

Bタイプでは、林業に取り組む人々が減少したことや、手入れ不足の森林が増加したことにより、森林の持つ多面的な機能が十分に発揮できなくなっているため、企業、森林所有者の南陽市、山形県の3者協定の下に、定期的な森林整備活動が実施されている。

Cタイプでも、企業が所有する森林整備等が行われ、食と農、観光を融合させた活動が大学連携で行われている。また今後においては、林業に携わる方々の高齢化や所有者不明の増加が続くところで、今年度より施行された「森林経営管理法」や「森林環境譲与税」といった制度をどのように活用し、有利な財源を林業従事者の増加や林業の成長産業化に繋げていくかが今後の市町村の課題であるといわれ、荒れた森林に手を加える「森林整備の重要性」と森づくりの大切さを伝えること、活動の一つ一つに理解を得ることが重要であると認識する機会となった。

シェルターなんようホールは、南陽市民の三分の一が市民会館の建て替えを訴え、署名や請願が市議会に提出され採択された経緯がある。当時は人工林の多くが木材としての利用段階にあり、農林水産省へのトップセールスなど林野庁所管の森林整備加速化補助事業の採択により、地元産材をふんだんに使用したホールが完成、稼働率、経済効果も順調で、木材利用優良施設として林野庁長官賞、ウッドデザイン賞低炭素杯2017では環境大臣賞、木造ホールでは世界最大としてギネス世界記録に認定されている。財源の確保、地元産材の活用、地元企業の施工による国内最先端の耐火技術、雇用の創出、どの分野においても大変参考になるものでした。

#### 視察状況



ウ 所 見：福島県福島市

福島市では、市、市民、事業者が一体となって「環境最先端都市 福島」の実現を目指し、地域の特性に合った再生可能エネルギーの導入が推進されている。課題としては、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の飛散により、市全域が汚染されてしまった森林間伐材等の利用を前提とするバイオマス発電が極めて厳しい状況にあり、木材を焼却する際に排ガス中に移行した放射性物質をバグフィルターで除去することのほかに焼却灰の適正処理など、対策を十分に講じて安全性を確保する措置、放射能への不安払拭を図ることが必要なエネルギーの活用が難しい環境にあると説明があった。また、将来像としては、地球温暖化防止と環境への負荷の少ない低炭素・循環型社会の構築、原子力災害からの復興、地域活性化を図り災害・非常時に強いまちづくりを進め、安全・安心なエネルギーによる地産地消が進んだ原子力に依存しない社会を目指すこと、「次世代エネルギーパーク」の活用で、再生可能エネルギーの特徴や有用性、エネルギー問題への理解を深めていく学習機会を市内外に提供することにあると理解させていただきました。

ご案内いただいたJR福島駅では、「省エネ」一步進んだエネルギー、「創エネ」再生可能なエネルギーの積極的な導入、「エコ実感」お客様が「エコ」を実感できる施設の整備、「環境調和」人と環境の調和ならびに活気を創出するための取組みをご紹介いただき、エネルギーを創り出したり、今までよりもっと環境にやさしく、災害に強い福島駅を目指されていると実感しました。

また、軽量型太陽光パネルを使用した同種の発電システムを採用する駅としては世界一であること、停電時に有効である蓄電池システム、地中熱ヒートポンプシステムを利用した空調設備、電気自動車の充電器、LED照明、エコ表示盤など、駅としての機能を充実させるための工夫が要所に感じられ、再生可能エネルギーの在り方がよく理解できる機会となりました。

## 視察状況

